

講義名	現代世界史		
科目区分	教養一般		
担当教員	堅田 智子		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 3時限	授業形態	
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

<b>主題と概要</b>			
<p>主題：「オーストリア」</p> <p>概要：オーストリアという国に、どのようなイメージがありますか。「オーストリア」と「オーストラリア」を同一の国と誤認していませんか。オーストリアもドイツ語を公用語としている国ですが、日本では、隣国のドイツよりも認知されていない国かもしれません。2019年は、日本とオーストリアが正式に国交をむすんでから150周年にあたり、これを記念して、両国ではお互いの国をより深く知るために、多くの文化事業が実施されました。本授業では、「文化」をキーワードに、オーストリアの歴史や現在まで続く日本との交流について学んでいきます。</p>			

<b>到達目標</b>			
<p>筆記型の「歴史」から脱却し、思考型の「歴史学」にふれることが、本授業での最大のねらいです。オーストリアの歴史や日本との文化交流の実態を理解し、関係史／交流史を学ぶことの現代的な意義を考えていきます。そして、多角的かつ国際的視点を養い、さらに日本や世界のあり方に興味をもち、主体的に考えていく姿勢を身につけていきます。また、歴史学の学びを通じて、「情報の海」の中で暮らす中で、何が正しい情報なのか見極める力、物事の捉え方を実践的に学んでいきます。</p> <p>毎回、授業内容をふまえ、リアクションペーパーを書くことにより、みずからの考えをまとめ、他者に伝える力を養うことも、本授業でのねらいの一つです。</p>			

<b>提出課題</b>			
<p>リアクションペーパー：毎回、responを利用し、授業内で提示した問いに対する答え、感想、質問等を記入するリアクションペーパーの提出を求めます。中間レポート：授業内で課題を提示します。</p>			

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b>			
<p>リアクションペーパー：授業冒頭で、前回、提出されたリアクションペーパーを利用し、授業内容の復習や質問への回答、補足説明を行ないます。中間レポート：希望者には、期日までに一度、レポート仮提出を行なうことを認めます。採点の上で返却し、加筆・訂正を行ない、最終提出をすることで、レポートの問題点を学生自身が理解できるようにします。</p>			

<b>評価の基準</b>			
<p>リアクションペーパー（25%）、中間レポート（25%）、学期末試験（50%）を総合して、評価をします。</p> <p>評価の基準は、1. 授業内容を理解し、到達目標に達しているか、2. 主体的に問題意識をもち、それを論理的な文章によって表現し、他者に伝えることができるか、という2点です。</p> <p>中間レポートおよび学期末試験の課題は、授業内で提示します。なお、授業回数全15回のうち、5回以上欠席した場合、中間レポートを提出していない場合は、原則として評価の対象としません。</p>			

<b>履修にあたっての注意・助言他</b>			
<p>授業中、スマートフォンや携帯電話など授業に不要なものは、鞆の中にしまいましょう。私語は慎み、大学生として良識ある態度で授業に臨みましょう。積極的な質問や意見を歓迎します。</p>			

<b>教科書</b>
・とくになし。

<b>プリント資料及び参考文献</b>
<p>プリント資料をもとに、授業を進めていきます。プリント資料は、Ryuka Portalに掲示しますので、各自、授業前にプリントアウトし、持参してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>増谷英樹、古田義文編著『図説 オーストリアの歴史』河出書房、2011年。</li> <li>増谷英樹『図説 ウィーンの歴史』河出書房、2016年。</li> <li>広瀬佳一、今井顕編著『ウィーン・オーストリアを知るための57章』（第2版）明石書店、2011年。</li> </ol>

<b>授業計画</b>	
第1回	カイトダンス／人種、民族、国民、文化から見るオーストリア
第2回	「歴史」と「歴史学」①
第3回	「歴史」と「歴史学」②
第4回	オーストリアの自然と地勢
第5回	多民族国家としてのオーストリア
第6回	オーストリアの経済・産業・観光
第7回	ハプスブルグ帝国からオーストリア共和国へ
第8回	博物館／美術館見学
第9回	日本・オーストリア交流史①：概説
第10回	日本・オーストリア交流史②：ウィーン万博における日本展示とジャポニスム
第11回	日本・オーストリア交流史③：ウィーンのジャポニスム
第12回	文化・芸術・音楽の国オーストリア
第13回	過去の克服と歴史認識
第14回	ヨーロッパの中のオーストリア
第15回	まとめ

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>	
<input type="radio"/>	ア：PBL（課題解決型学習）
<input type="checkbox"/>	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/>	ウ：ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/>	エ：グループワーク
<input type="checkbox"/>	オ：プレゼンテーション
<input type="checkbox"/>	カ：実習、フィールドワーク

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>	
<p>予習（目安1時間）：プリント資料をあらかじめRyuka Portalに掲示しますので、プリントアウトし、目とおしでおくようにしましょう。高等学校の時に使用した世界史教科書や資料集に叙述されているオーストリアの案、新聞やニュースなどで報道されているオーストリアの姿に関心をむけてみてください。</p> <p>復習（目安1時間）：プリント資料をもとに、授業内容を復習してください。</p>	

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>	
<p>既述のとおり、毎回、responを利用し、授業内で提示した問いに対する答え、感想、質問等を記入するリアクションペーパーの提出を求めます。授業冒頭で、前回、提出されたリアクションペーパーを利用し、授業内容の復習や質問への回答、補足説明を行ないます。</p>	

<b>実務経験の有無及び活用</b>	
実務経験なし	

<b>備考</b>	